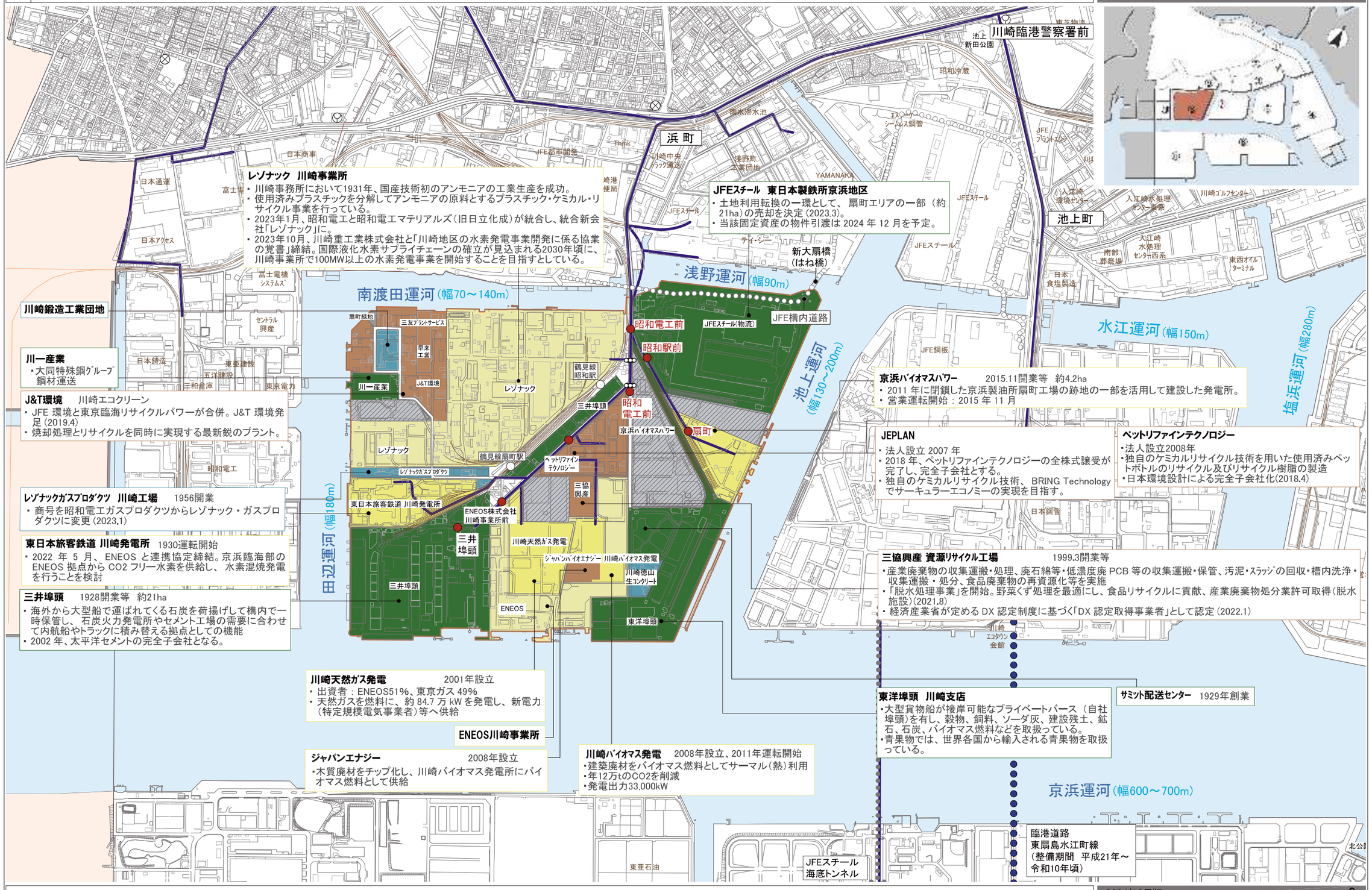
凡例

- 市域
- 対象地区範囲
- バス停
- 鉄道駅
- 工業用水道
- 警察署
- 消防署
- 製造（石油・石油化学）
- 製造（石油・石油化学以外）
- リサイクル
- 公共用地
- 物流
- エネルギー
- その他
- 公園等
- 研究開発

SCALE 1/12000　0 100 300 500m

扇町地区 8



レゾナック　川崎事業所
- 川崎事務所において1931年、国産技術初のアンモニアの工業生産を成功。
- 使用済みプラスチックを分解してアンモニアの原料とするプラスチック・ケミカル・リサイクル事業を行っている。
- 2023年1月、昭和電工と昭和電工マテリアルズ（旧日立化成）が統合し、統合新会社「レゾナック」に。
- 2023年10月、川崎重工業株式会社と「川崎地区の水素発電事業開発に係る協業の覚書」締結。国際液化水素サプライチェーンの確立が見込まれる2030年頃に、川崎事業所で100MW以上の水素発電事業を開始することを目指すとしている。

JFEスチール　東日本製鉄所京浜地区
- 土地利用転換の一環として、扇町エリアの一部（約21ha）の売却を決定（2023.3）。
- 当該固定資産の物件引渡は 2024 年 12 月を予定。

川一産業
- 大同特殊鋼ｸﾞﾙｰﾌﾟ鋼材運送

J&T環境　川崎エコクリーン
- JFE 環境と東京臨海リサイクルパワーが合併。J&T 環境発足（2019.4）
- 焼却処理とリサイクルを同時に実現する最新鋭のプラント。

京浜バイオマスパワー　2015.11開業等　約4.2ha
- 2011 年に閉鎖した京浜製油所扇町工場の跡地の一部を活用して建設した発電所。
- 営業運転開始：2015 年 11 月

JEPLAN
- 法人設立 2007 年
- 2018 年、ペットリファインテクノロジーの全株式譲受が完了し、完全子会社とする。
- 独自のケミカルリサイクル技術、BRING Technology でサーキュラーエコノミーの実現を目指す。

ペットリファインテクノロジー
- 法人設立2008年
- 独自のケミカルリサイクル技術を用いた使用済みペットボトルのリサイクル及びリサイクル樹脂の製造
- 日本環境設計による完全子会社化(2018.4)

レゾナックｶﾞｽﾌﾟﾛﾀﾞｸﾂ　川崎工場　1956開業
- 商号を昭和電工ガスプロダクツからレゾナック・ガスプロダクツに変更（2023.1）

東日本旅客鉄道 川崎発電所　1930運転開始
- 2022 年 5 月、ENEOS と連携協定締結。京浜臨海部の ENEOS 拠点から CO2 フリー水素を供給し、水素混焼発電を行うことを検討

三井埠頭　1928開業等　約21ha
- 海外から大型船で運ばれてくる石炭を荷揚げして構内で一時保管し、石炭火力発電所やセメント工場の需要に合わせて内航船やトラックに積み替える拠点としての機能
- 2002 年、太平洋セメントの完全子会社となる。

三協興産 資源リサイクル工場　1999.3開業等
- 産業廃棄物の収集運搬・処理、廃石綿等・低濃度廃 PCB 等の収集運搬・保管、汚泥・ｽﾗｯｼﾞの回収・槽内洗浄・収集運搬・処分、食品廃棄物の再資源化等を実施
- 「脱水処理事業」を開始。野菜くず処理を最適にし、食品リサイクルに貢献、産業廃棄物処分業許可取得（脱水施設）(2021.8)
- 経済産業省が定める DX 認定制度に基づく「DX 認定取得事業者」として認定（2022.1）

川崎天然ガス発電　2001年設立
- 出資者：ENEOS51%、東京ガス 49%
- 天然ガスを燃料に、約 84.7 万 kW を発電し、新電力（特定規模電気事業者）等へ供給

東洋埠頭　川崎支店
- 大型貨物船が接岸可能なプライベートバース（自社埠頭）を有し、穀物、飼料、ソーダ灰、建設残土、鉱石、石炭、バイオマス燃料などを取扱っている。
- 青果物では、世界各国から輸入される青果物を取扱っている。

サミット配送センター　1929年創業

ジャパンエナジー　2008年設立
- 木質廃材をチップ化し、川崎バイオマス発電所にバイオマス燃料として供給

川崎バイオマス発電　2008年設立、2011年運転開始
- 建築廃材をバイオマス燃料としてサーマル（熱）利用
- 年12万tのCO2を削減
- 発電出力33,000kW